

### 天皇家と南越前町(二)

二、明治天皇(六月号より続)

翌九日、明治天皇御一行は朝七時に今庄行在所後藤家(現在の明治殿)をご出発。八時十分新道の真福寺にて小休止され、この寺にあった時習小学校(後の鹿蒜小学校)の子供達も拝観。九時二十分二ツ屋の高野三喜太家着。この頃より風雨が激しくなり、帽子や傘も飛ぶ程だったようだ。

十一時三十分ようやく木ノ芽峠の前川肇家にご到着という行程であった。

さて、明治天皇の北陸御巡行と南越前町との関係で特筆すべきことは、今庄行在所での夜、継体天皇の御聖蹟の調査を県にお命じになったことである。明治天皇にとって直系の御先祖である継体天皇の御業績に深い御関心を持たれたようだ。県は直ちに本多鼎介(武生の士族・後に県会議長)に命じて聖蹟取調書を作製させ、東海道の御巡行先に奉答したようだ。

### 三、後醍醐天皇

南北朝時代、柚山城主瓜生保(柚山庄は高倉天皇の妃、七條院の御領で、瓜生家はその守護人)や新田義貞は後醍醐天皇を擁立して足利尊氏と激しく戦った。しかし一三三七年正月に金ヶ崎の戦いで敗れ、城中に生き残った後醍醐天皇の皇子、恒良親王を氣比斎晴(氣

比神宮神官)が小舟で救出、燕木浦の下長谷の洞窟(現甲楽城の漁協前)にかくまった。奥行き二十m以上ある洞窟へ村人達は食糧などを運んで親王のお世話をしたと語り伝えられている。その後親王は発見され、毒殺された。村人はこの洞窟の上に二ノ宮神社を建立、後醍醐天皇と恒良親王を合祀した。

### 四、継体天皇

今から千五百年も前に即位され、謎の多い天皇であるが、各種記録をたどりながら、継体天皇と当町との関係などについて記してみたい。

#### ①熊野神社(清水)

「越前名蹟考」によると、男大迹王(継体天皇が即位される前の御名)が当社に参拝されて休んでおられると、そのあたりでウグイスが良い声で鳴いたので、当社を「初音の宮」、当地を「鶯ノ関」と名付けられたという。

#### ②日野山周辺(上平吹など)

継体天皇が二皇子(後の安閑天皇・宣化天皇)を伴って登山され「この山こそ朝日を拝むべき山である」と仰せられたという伝説があり、以前には、頂上にこの三人の天皇を祀る日野大権現があったようだ。日野山麓にある継体天皇を祭神とする神社を列挙すると、四つの日野神社(平吹・向新保・荒谷・常久)・五皇神社(文室) 諏訪神社(五分市) 少彦名神社(萱谷) 味

真野神社(池泉) 岡太神社(粟田部)、岡太神社(大滝)となる。越前に継体天皇を祭神とする神社は、足羽神社など十数社ある中で、日野山周辺に十社あり、継体伝説の多い地でもあるので、この山と継体天皇の縁が深いと考えられる。

#### ③太姫古墳(大良)

大良集落の西にある通称「三まい山」と呼ぶ山頂に方形台状墓がある。これは「越前名蹟考」「足羽社記」(江戸時代)によると、継体天皇の孫娘(関媛の娘「茨田太姫皇女」の古墳だという。この名をとって大良浦(万葉仮名では多羅婦宇良)となったようだ。

#### ④継体街道(牧谷・鯖波・河野浦)

振媛が継体天皇をお産みになったのは近江(滋賀県)であるが、夫の彦主人王が死亡したので幼い皇子を連れ、実家の越前高向(丸岡町)に帰って養育された。その約五十年後に天皇即位のため上洛された。とすると最低二回、天皇は南越前町を通られたと推測できる。では、その道はどれか。

縄文時代(四〜五千年前)の地球の平均気温は今より二℃高く、従って海面も五m高かったため、福井・坂井郡平野部は海であった(海進)。これは、この時代の全国貝塚分布からわかる。しかし継体天皇時代(千五百年前)までには気温も少しずつ下がって海面も下がり(海退)現在の海岸線となったが、越前平野は大湿地帯として残った。それは越前の海岸部は山地帯に囲

まれ、三大河川を流れる水は全て三国の九頭竜河口に集まるといって大変排水の悪い地形による。では継体時代の河川はどういう状態であったか。

左図は、大雨で堤防が決壊した時、どこまでどれだけの深さで浸水するかを標高差や排水状態から計算して県が作った日野川水系の浸水想定区域図である。これは堤防やダムのない古代における日野川の状況を示すものだとも思う。これを見ると、古代からあったと言われる北陸道ではあるが、白鬼女渡(鯖江)の厳しさ、朝津駅(浅水)の北にあった大きな玉江沼(江端から花堂一帯)を迂回して足羽駅(福井市内)のルートは雨季には無理。そこで北陸道の東側山沿いのルートは古代からあったと推測する。この道は通称朝倉街道、一乗谷と柚山や加賀を結ぶ戦略的な道だといわれているがおそらく古代からの道を拡張整備したものであろう。

従って、継体天皇は家族や守備隊を伴って高向を出発、阿味駅(味真野)の鞍谷御所(池泉・現在の味真野神社)で一泊、牧谷峠・上野・堂宮・新河原渡・淑羅駅(鯖波)で二泊目、奥野々・菅谷峠・河野浦と当町を通られたと推理する。当時、天皇は五十七歳とすれば、孫の太姫皇女も同行、大良付近で死亡して埋葬されたとも想像できる。いずれにしても継体天皇が即位される為に当町を堂々と行進されるお姿を想像するだけで大きな歴史口マンを感じる。(以下次号へ)

## 継体天皇時代の越前古代道

日野川水系の浸水想定区域図より

● 継体天皇を祭神とする神社  
○ 継体天皇の伝説のある神社・地域

